

インターバンクの声（2014年7月28日）

稀に見る低ボラティリティー相場が長く続いてきたが、先週あたりからようやく市場にも変化が見え始めた。金曜日のユーロ・ドル相場は、独7月のIFO景況感指数が事前予想を下回り、今年の最安値だった2月に付けた1.34ドル台後半の水準を割ってきた。差し当たりの次の安値目標は、昨年11月上旬レベルの1.33ドル辺りだろう。新たな進展が聞こえて来ていないウクライナをめぐるユーロ圏とロシアの対立が深まるようなことがあれば、複数の金融機関がユーロ売りの目標値として掲げている1.30ドル到達にもさほど時間が掛からないかも知れない。

円相場は、ロンドン市場の早い時間に102円突破まであと数銭にまで迫ったが、米耐久財受注のコアの資本財受注前月分が大幅に下方修正されたことで、金曜日の中の102円越えはお預けとなった。今週は米連邦公開市場委員会（FOMC）、米ADP雇用統計、中国製造業PMI、米雇用統計などの大きなイベント、指標発表が控えており、相場が大きく変化するには持ってこいの環境は整っているが、本格的な夏休みに入る前の週の大相場に期待する市場関係者が大勢いるようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。